

# 学力・学習状況調査結果から見た

## 扶桑町の児童生徒の状況 その1

文部科学省によって昨年度から全国一斉に「学力・学習状況調査」が行われております。本年度も来る4月22日小学校6年生と中学校3年生を対象に実施されます。扶桑町の学校もこれまでの指導の反省とこれからの指導の資料とするため、又児童生徒にとっては自分の状況を掴むためにこの調査に参加します。昨年行われた学力・学習状況調査の結果からみて、学力に関して扶桑町の児童生徒の傾向は次のようになります。

なお、「序列化や過度な競争とならないようにするため平均値等の数値の公表はしない」という方針をとっております。また、児童生徒に個人差がありますので、以下に記載させていただきました内容が必ず誰にも当てはまるわけではありません。扶桑町の子どもたち全体の傾向としてご理解いただきますようお願いいたします。

	国語	算数・数学
小学校 6年生	○「知識」「活用」ともおおむね満足できる状況です。 ・領域別では「話すこと・聞くこと」に関する問題の正答率は全国レベルより低い。 ・漢字の書き取りは字によって正答率にかなりの開きがある。	○「知識」「活用」ともおおむね満足できる状況です。 ・「数学的な考え方」「記述式」の問題は比較的良くなっています。 ・「数と計算」に関する問題で、計算方法が確実に身につけていない子がある。
中学校 3年生	○「知識」「活用」ともおおむね満足できる状況です。 ・「話す・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」の4領域ともおおむね満足している。	○「知識」「活用」とも大いに満足できる状況です。 ・「数と式」「図形」「数量関係」の3領域とも大変よくできています。 ・「記述式」の問題の正答率は顕著に高い。

※国語・算数とも小学校では全国レベルであり、おおむね満足できる状況にあります。

しかし、国語では「書くこと」「読

むこと」「言語事項」は全国レベルであるものの「話す・聞くこと」に関する問題の正答率は低く、この領域に

ついでこの弱さが見られました。このこ

とを含め今後の指導について考えてみたいと思います。

扶桑町の子どもたちは、授業中の挙手発言が少なく、また一部の子に偏っているように思われます。授業の中で積極的に挙手発言をする態度の育成に取り組むべきでしょう。これによって先生の質問の要点、友達の発言の内容を間違いなく聞き取る力が養われ、自分が発言する時には分かりやすく、はっきりと要点をまとめて話す習慣が培われていくと考えられます。さらに「話すこと・聞くこと」に関する問題といえども、問題文を正確に読み取ることが基本になります。今後も、読書活動を推進するなど活字に親しませる機会を多くし、要点を確実に読み取る力を一層伸ばしていくことも大切です。また漢字能力は普通程度でありませんが、基礎的な力の育成という意味で漢字書き取りの力を入れていかなくてはなりません。

算数においてはどちらかといえば「知識」より「活用」のほうが全国レベルと比較して出来がよく、かなり複雑な数量関係もつかめる能力を持っているようです。この能力を生かすために、小数・分数や式の意味、図形など算数における基礎的な知識を徹底的に定着させていくべきだと思われれます。学校での授業はもちろん家庭での宿題をふくめ基本的な問題の反復練習で徹底することが大切です。

※中学校については、国語・数学と

も基本的な知識・理解の定着の高さが活用能力の高さに結びついていると考えられます。特に数学においては正答率は非常に高く大いに満足できる結果となりました。高校受験を控え勉強に励んでいる中学生の姿が見えます。扶桑町という落ち着いた地域性も関係していると思われれます。

この傾向が、この年の生徒だけのものなのか、あるいは扶桑町の中学生に共通のものなのかは、今後の学力調査を継続していく中で明らかになっていくことでしょう。

ただ、問題ごとに見ていくと常識的にできるような問題でも出来が悪かったものもあります。問題の意味が読み取れなかったと判断できます。できるだけ多くの問題に当たり、あらゆる角度からの質問にも慣れておくことが大切と考えられます。

※小学校での「基礎・基本」定着のための指導体制の充実と、教師の指導姿勢のチェックが求められます。また、高成績を出している中学校においても今後さらに一人ひとりの力に合わせた授業を考えていかねばなりません。

いままでに引き続き学校では、個別指導・少人数指導・グループ指導・教材の工夫・授業評価などの取り組みを積極的に進めてまいります。

◎児童生徒の学習状況につきましては、5月号に掲載させていただきます。

文責 教育長 河村共久